



1. 研修の目標

- ①一般外科研修として：外科認定医を取得すること。
- ②サブスペシャリティとして：開胸手術，胸腔鏡手術，気管支鏡，呼吸器インターベンション（ステント，EBUS-TBNA&GS，光線力学療法など）などを修得し，下記の資格を取得すること。

2. 取得できる資格（取得率は100%）

外科専門医，呼吸器外科専門医，気管支鏡専門医，がん治療認定医，細胞診専門医

3. 新体制で未来へ飛躍

2009年より呼吸器外科グループとして独立し，佐藤幸夫教授が就任して新体制となりました。2010年度以降の手術件数は著しく増加し，年間220件（肺癌が約100件）と全国でも有数の症例数を経験できる施設になりました。若い先生に積極的に手術に携わってもらえるようになり，生涯にわたって使える外科の知識や考察力，基本・応用技術，危機回避能力を磨けるような体制が出来ました。

4. 研修医のための手術技術トレーニング企画

- ①ドライラボ（月2回）：ボックストレーナーを用いた基本技術訓練
  - ②摘出心肺を用いたウェットラボ（年2-3回）：胸腔鏡に限らず直視下の縫合結紮のトレーニング
  - ③つくばVATSセミナー（年2回）：全身麻酔下下タを用いた肺手術トレーニング
- \*全てのプログラムで，教員が専属で指導します。



←摘出心肺を用いたウェットラボの様子（筑波大）  
↓つくばVATSセミナーの様子（石岡市）



5. 当科が目指す外科治療

①胸腔鏡手術で低侵襲性を突き詰める

患者の身体負担と合併症を軽減するべく傷が小さく痛みの少ない胸腔鏡手術を幅広い疾患に対して積極的に導入しています。安全性と完成度の高い手術を行い，開胸手術と遜色ない治療成績が出ています。胸腔鏡手術は高度な技術が必要ですが，トレーニングと実地臨床を繰り返してレベルアップしています。

②肺切除量の工夫（機能温存手術）

近年の高解像度CTで発見される小型で低悪性度の肺癌に対して，区域切除等の機能温存手術を行っています。画像解析ソフトやタブレット型PCなど活用して複雑な肺切除術も行っています。この術式は多発肺癌，高齢者，低肺機能患者の手術として将来極めて有用な術式となるはずで

③局所進行肺癌，縦隔腫瘍，胸膜中皮腫に対する手術を含めた集学的治療の確立

大学病院の利点を最大限に活かし，陽子線治療，新規抗癌剤，分子標的治療薬を併用した局所進行肺癌への外科治療，癌遺伝子やバイオマーカーによる特性を考慮したテーラーメイド治療に取り組んでいます。術前・術後化学療法に関する独自の臨床試験も複数動いています。臨床や研究の成果は若手医師を中心に国内・国際学会で発信しています。

6. 連絡・問合せ 029-853-3097（秘書）

教授：佐藤幸夫 [ysato@md.tsukuba.ac.jp](mailto:ysato@md.tsukuba.ac.jp) PHS 91796

講師：酒井光昭 [misakai@md.tsukuba.ac.jp](mailto:misakai@md.tsukuba.ac.jp) PHS 7706（029-853-7706直通）

7. キャリア・アップ・システムの内容

